

「東京港のコンテナターミナルの効率化について」

- 東京港におけるコンテナターミナルの効率化について伺う。
 - 近年、経済のグローバル化が進み、国際貨物の輸送量は大きく増加してきている。国内最多のコンテナ貨物を取扱う東京港においても、貨物取扱量は増加し続けてきており、標準的な貨物処理能力を大幅に超える量のコンテナ貨物を取扱う状態が続いている。
 - その結果、コンテナターミナル周辺では、貨物の受け渡しを行うために来場したトラックによる交通混雑が発生しており、大きな課題となっている。
 - 貨物処理能力を抜本的に向上させるためには、新規のふ頭整備や既存ふ頭の再編整備など、ハード的な対策が必要不可欠であるが、こうした対策は効果が現れるまでに時間を要する。
 - そのため、比較的、早期に効果が表れやすいソフト対策も講じながら、円滑な物流の実現を図ることが重要である。
 - こうした問題意識のもと、物流円滑化に資するソフト面の対策について、確認をしていきたい。
-
- まず、東京港のコンテナ取扱量について確認をしたい。
 - 世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、国際海上物流が大きく混乱し、世界各国の主要な港で貨物取扱量が落ち込んだと聞いている。新型コロナの感染拡大が始まった一昨年は、東京港でも貨物取扱量が減少したと聞いているが、
 - 東京港の外貿コンテナ取扱量の直近の状況について、改めて伺う。(Q1)

(答弁)

- ・ 東京港の本年上半期の外貿コンテナ取扱個数は、速報値ではあるが215万TEUとなった。前年同期比で1.3%増加しており、コロナ禍前の令和元年と比べてもほぼ同水準に戻っている。

- ・その要因としては、コロナ禍で制限されていた経済活動が徐々に回復していく中、製造食品等の取扱量が増加している点があげられる。
- 上半期での比較ではあるが、東京港の外貿コンテナ貨物は、ほぼコロナ禍前の水準に戻っているとのことであり、経済が回復しつつあることを示す明るい兆しであると思う。
- 一方で、冒頭で申し上げた通り、港で取り扱うコンテナの数が増えれば、貨物の受け渡しのために港に来場するトラックも増えることとなり、ふ頭周辺の道路における交通混雑が激しくなることが懸念される。そこで、
- 都は現在、交通混雑対策としてどのような取組を行なっているのか、確認のために伺う。(Q2)

(答弁)

- ・コンテナターミナル周辺の交通混雑を解消するためには、港へ来場するトラックを時間的に分散させることが重要
- ・東京港では、荷主からの要請により、コンテナターミナルから引き取った貨物を朝一番に納品するという配送サイクルがあるため、納品前日の午後、特に夕方にコンテナ車両がターミナルへ集中する傾向
- ・そのため都は、貨物引取のタイミングを前日夕方から当日朝へシフトさせることを目的として、コンテナターミナルのゲートオープン時間を1時間前倒しする、いわゆる「早朝ゲートオープン」を実施
- ・また、ウェブカメラによるふ頭周辺道路の交通状況の配信に加え、昨年7月からは、GPS端末の活用によりコンテナターミナルに入場するまでの待機時間等をリアルタイムで公表する、混雑状況の「見える化」の取組を開始し、港へ来場するトラックの時間的な分散を促進しているところ

- 早朝ゲートオープンを通年で実施しているのは東京港だけであり、実施に当たっては港湾関係事業者の相当なご苦労があると聞いている。改めて関係者の方々に敬意を表したい。
- また、コンテナターミナルに入場するまでの待機時間をリアルタイムで公表する取組については、私も実際にやってみたが、スマートフォンで簡単に確認することができるものであった。交通混雑解消に向け、デジタル技術を活用した新たな取組を開始したことは、評価したいと思う。
- しかし、港に来場するトラックのさらなる時間的な分散を図るためには、海外の一部の港では既に実施されているが、コンテナターミナルで貨物の受け渡しを行う時間を予め指定する、いわゆる予約制を促進していく必要があると考える。
- 先の第三回定例会の我が党の代表質問において、都からは、国と連携して8月から予約制を開始したとの答弁があったが、その具体的な内容を確認していきたい。そこでまず、
- 今般開始したコンテナ貨物の搬出入予約制の概要について伺う。
(Q3)

(答弁)

- ・コンテナ貨物の搬出入予約制は、時間帯ごとに設定された予約枠の中で、貨物の受け渡しのためにコンテナターミナルへ来場する日時をトラック事業者が予め選択することができる制度
- ・ターミナルへ来場するトラックの数を時間的に平準化させることから、ふ頭周辺の交通混雑の緩和につなげることができるとともに、トラック事業者にとっては、ターミナルでの貨物の受け渡しに要する時間が予測しやすくなり、配送効率の向上を図ることができる取組

- ・今般開始した予約制は、国が開発した CONPAS と呼ばれるシステムを利用して行うものであるが、関係者の習熟を図る必要があることから、まずは2つのコンテナターミナルで、8月下旬から9月上旬の間の10日間、1時間あたりの予約枠を13台から15台に設定

- ふ頭周辺の交通混雑緩和だけでなく、トラック事業者にとっても配送効率を改善させることができる取組であるとのことである。
- 東京港を利用するトラック事業者からは「コンテナターミナルへの入場の待ち時間がどれぐらいになるかは、実際に行ってみないと分からないので、配送計画を立てづらい」という声をよく聞かすが、予約制では貨物の受け渡しの時間を予め指定するので、事業者は効率的な配送計画を立てることができるのではないかと思う。
- 今回、まずは2つのターミナルで10日間にわたって予約制を試行したということであるが、実施状況はどのようなものであったのか、伺う。(Q4)

(答弁)

- ・今回、2つのコンテナターミナルで予約制を利用したトラックは、それぞれ310台と183台であり、予約枠数に対する予約率で見ると、それぞれ、40%、18%であった。
- ・コンテナターミナルのゲート前での平均待機時間は、受け渡しを行う貨物の種類にもよるが、予約をせずに来場したトラックと比較すると、最大で58分削減
- ・実施期間を通じて大きなトラブルはなく、安定的に予約制を運用することができたが、予約率が低迷した点は今後の課題であると認識

- まずは安定的な運用が確認できたこと、また、待機時間の削減につながったことは、今後に向けた大きな一歩だと思う。
- 一方で、予約率が低かったことは課題である。
- 予約率の向上に向け、都は今後どのように取り組んでいくのか、伺う。(Q5)

(答弁)

- ・ 都は、予約制の利用拡大に向けて、今般の実施結果や関係事業者の意見を踏まえ、参加事業者数や運用方法を見直した上で、改めて11月16日からの平日10日間、2回目の予約制事業を実施
 - ・ 具体的には、8月から9月にかけて実施した1回目の事業では、円滑な運営を図るために、参加できるトラック事業者を18事業者に限定したが、2回目の事業では東京都トラック協会海上コンテナ専門部会に加盟している109の事業者に対して広く参加を打診
 - ・ また、1時間あたりの予約台数を約2倍の30台に拡大
 - ・ さらに、待機時間の削減という予約制利用のメリットを、港湾物流関係者用のウェブサイトである東京港ポータルサイトで掲載するなど、利用促進に向け積極的にPRしていく。
-
- 私も、この事業に関して、事業者から「時間短縮に繋がった。」とか「配車の選択肢が広がり助かった。」といった声があったと聞いている。
 - 一方で、先ほどの答弁にもあったが、東京港を利用する荷主は朝一番での納品を求める傾向があるため、午後から夕方にかけて時間帯の予約が埋まりやすいとも聞いている。
 - 予約制の拡大に向けては、単にトラック事業者の協力を求めるだけではなく、広く荷主の協力を得る必要もあると思う。長年の慣行で続いてきている物流サイクルを変えるのは非常に大変なことだとは思いますが、ぜひ積極的に取組を進めてもらいたい。

- ここまでの質疑を通じ、予約制の導入によってコンテナターミナルのゲート前における待機時間が削減されたことを確認できた。
- しかし、トラック事業者にとっては、ゲート前での待機時間の短縮だけではなく、ターミナルの中でコンテナの受け渡しに要する時間の短縮も重要である。
- 現状では、この受け渡しにも相当時間がかかる場合があると聞いている。特に、東京港で取扱いの多い輸入貨物を受け取る際に、時間がかかるケースが多くみられるようである。
- コンテナターミナルでのトラックへの貨物の受け渡しに時間がかかることについて、その原因を都はどのように分析しているのか、伺う。(Q6)

(答弁)

- ・ 輸入貨物が多い東京港では、取扱貨物量と比較してコンテナヤードの面積が狭隘であるため、時期やターミナルによって状況は異なるが、輸入されたコンテナ貨物を多い時では4段から5段積みで保管
 - ・ 一方で、ターミナル事業者は、トラックがどの貨物をいつ引き取りに来るのかについて、現状では事前に把握できないため、引き渡す順番等を考慮して効率的にコンテナを保管しておくことが困難な状況
 - ・ このため、例えばトラックが引き取りに来たコンテナが一番下の段に保管されていた場合は、当該コンテナの上に載っているコンテナを全ていったん他の場所に移動させた上で、目的のコンテナを取り出す、という作業が発生
 - ・ こうした作業が頻繁に繰り返されていることから、コンテナをトラックへ引き渡すまでに時間がかかってしまう状況
- 私自身、コンテナターミナルの現場に何度も足を運んでいるが、ターミナル内に輸入されたコンテナ貨物が5段積みになっている風景をよく目にする。

- ターミナル側では、引取の予定日時を踏まえた上でコンテナを段積み保管することが困難なため、引き渡しに当たって余計な作業が発生し、時間がかかってしまうとのことである。
- そこで、先ほど来議論している予約制を通じて事前に取得した貨物情報を活用すれば、トラックへの貨物引き渡しの際の余分な作業が発生しないようにすることができるのではないか、と考える。
- 予約情報を有効に活用することで、ターミナル内での貨物の受渡し作業を効率化すべきであると考えているが、都の見解を伺う。(Q7)

(答弁)

- ・コンテナターミナルでの貨物引き渡しの時間を削減し、ターミナル運営の効率化を図っていくためには、CONPAS で取得した予約情報を活用することにより、短時間で引き渡しを行なえるコンテナ配置を実現させることが有効
- ・ターミナルにおけるコンテナの配置については、ターミナル事業者の運営システムで管理されているため、コンテナ配置の最適化にあたっては、事業者のシステムと CONPAS とのデータ連携を行うためのシステム改修が必要
- ・このため都は、システム改修に向けた課題などについて具体的に検証を進めるとともに、改修経費の一部を補助するなど、事業者の取組を後押し
- ・今後とも都は、円滑な港湾物流の実現に向け、港湾物流の関係事業者と連携しながらデジタル技術を積極的に活用することにより、コンテナターミナルの更なる効率化を図っていく。

- 予約制の導入によりコンテナターミナルのゲート前における待機時間を削減するとともに、ターミナル内における貨物の引渡しに要する時間もスピードアップさせなければ、港湾物流の効率化にはつながらない。

- この点、予約制のシステムである CONPAS と各事業者の運営システムとをデータ連携させ、どの貨物をいつ引き取りに来るのかといった情報をコンテナターミナルの運営にも活用していくことで、効率的な貨物の引き渡し作業を可能とする取組は、大変期待が持てると思う。
- ぜひ、コンテナターミナルの更なる効率化につなげていただくことを要望し、質問を終える。